

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



**2022.10.3-9**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。



30:25 ラケルがヨセフを産んだころ、ヤコブはラバンに言った。「私を去らせて、故郷の地へ帰らせてください。」

30:26 妻たちや子どもたちを私に下さい。彼女たちのために私はあなたに仕えてきました。行かせてください。あなたに仕えた私の働きは、あなたがよくご存じなのですから。」

30:27 ラバンは彼に言った。「私の願いをあなたがかなえてくれるなら——あなたのおかげで【主】が私を祝福してくださったことを、私は占いで知っている。」

30:28 さらに言った。「あなたの報酬をはっきりと申し出てくれ。私はそれを払おう。」

30:29 ヤコブは彼に言った。「私がどのようにあなたに仕え、また、あなたの家畜が私のもとでどのようにであったかは、あなた自身がよくご存じです。」

30:30 私が来る前は、あなたの財産はわずかでしたが、増えて多くなりました。私の行く先々で【主】があなたを祝福されたからです。いったい、いつになったら私は自分の家を持てるのですか。」

30:31 彼は言った。「あなたに何をあげようか。」ヤコブは言った。「何も下さるには及びません。もし私に次のことをしてくださるなら、私は再びあなたの群れを飼って守りましょう。」

30:32 私は今日、あなたの群れをみな見て回りましょう。その中から、ぶち毛と斑毛の羊をすべて、子羊の中では黒毛のものをすべて、やぎの中では斑毛とぶち毛のものを取り分けて、それらを私の報酬にしてください。」

30:33 後であなたが私の報酬を見に来られた

とき、私の正しさが証明されるでしょう。やぎの中に、ぶち毛や斑毛でないものや、子羊の中に、黒毛でないものがあれば、それはすべて、私が盗んだことになりま

す。」

30:34 するとラバンは言った。「よろしい。あなたの言うとおりになればよいが。」

30:35 ラバンはその日、縞毛と斑毛の雄やぎと、ぶち毛と斑毛の雌やぎのすべて、すなわち身に白いところのあるものすべて、それに、黒毛の子羊のすべてを取りのけて、息子たちの手に渡した。

30:36 そして、自分とヤコブの間に三日分の距離をおいた。ヤコブはラバンの残りの群れを飼った。

30:37 ヤコブは、ポプラや、アーモンドや、すずかけの木若枝を取り、それらの白い筋の皮を?いで、若枝の白いところをむき出しにし、

30:38 皮を?いだ枝を、群れが水を飲みに来る水溜めの水ぶねの中に、群れと差し向かいに置いた。それで群れのやぎたちは、水を飲みに来たとき、さかりがついた。

30:39 こうして羊ややぎは枝の前で交尾し、縞毛、ぶち毛、斑毛のものを産んだ。

30:40 ヤコブは羊を分けて、その群れが、ラバンの群れの縞毛のものすべての黒毛のものに、向かい合わせになるようにした。彼は自分の群れを別にまとめておき、ラバンの群れと一緒にしなかった。

30:41 また、強い群れにさかりがついたときに、ヤコブはいつも、あの枝を水ぶねの中に、群れの目の前になるように置き、枝のところで交尾させた。

30:42 しかし、弱い群れのときには、それを

置かなかった。こうして、弱いものはラバンのものとなり、強いものはヤコブのものとなった。

30:43 このようにして、この人は大いに富み、多くの群れと、男女の奴隷、それらしくだどろばを持つようになった。

ヤコブは自分のものを増やそうとしました。ヤコブはフリーダーの技術を発揮して、自分だけが富むようにしてゆきます。以前のようにはだますわけではありませんが、祝福を自分の策略で手に入れようとする生き方は全く変わっていません。

なぜ神様はヤコブが富むことを許されたのでしょうか。それは何よりも祖父アブラハムに与えた約束の故です。そしてその約束の祝福をヤコブが自ら進んで受けたからです。またその財産を持って神の計画の地カナンに住むようになるためです。

箴言には「19:21 人の心には多くの計画がある。しかし主のはかりごとだけが成る。」とあります。ヤコブにはそのことを学ぶ必要がありましたが、私たちも同様です。まずは主の計画を教えていただき、それに沿って生きる必要があります。もしもそれができるなら家庭も仕事も教会も友人関係も、神の目で見ることができるようになり、より良い道を見出せるでしょう。

- ①神のみこころは? (信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)
- ②どんな思いになりましたか? (感情や願いなど)
- ③生き方にどう適用しますか? (あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)
- ④この世にあって何を実践しますか?

## 4日 火曜

### 創世記

31:1 ところで、ヤコブはラバンの息子たちが、「ヤコブはわれわれの父の物をみな取った。父の物で、このすべての富をもものにしたのだ」と言っているのを聞いた。

31:2 ヤコブがラバンの態度を見ると、はたして、それは彼に対して以前のようなではなかった。

31:3 【主】はヤコブに言われた。「あなたが生まれた、あなたの父たちの国に帰りなさい。わたしは、あなたとともにいる。」

31:4 ヤコブは人を送って、ラケルとレアを自分の群れのある野に呼び寄せ、

31:5 彼女たちに言った。「私は、あなたたちの父の態度が以前のようなのではないのに気づいている。しかし、私の父の神は私とともにおられる。

31:6 あなたたちがよく知っているように、私はあなたたちの父に、力を尽くして仕えてきた。

31:7 それなのに、あなたたちの父は私を欺き、私の報酬を何度も変えた。しかし神は、彼が私に害を加えることを許されなかった。

31:8 彼が『ぶち毛のものはあなたの報酬になる』と言えば、群れのすべてがぶち毛のものを産んだ。また、『縞毛のものはあなたの報酬になる』と言えば、群れのすべてが縞毛のものを産んだ。

31:9 こうして神は、あなたたちの父の家畜を取り上げて、私に下さったのだ。

31:10 群れのやぎにさかりがついたとき、私が夢の中で目を上げて見ると、見よ、雌やぎと交尾している雄やぎは、縞毛、ぶち毛、斑毛ばかりであった。



31:11 すると、神の使いが夢の中で私に『ヤコブよ』と言われた。私は『はい』と答えた。

31:12 御使いは言われた。『目を上げて見よ。雌やぎと交尾している雄やぎはみな、縞毛、ぶち毛、斑毛である。ラバンがあなたにしてきたことはみな、わたしが見た。

31:13 わたしは、あのベテルの神だ。あなたはそこで、石の柱に油注ぎをし、わたしに誓願を立てた。さあ立って、この土地を出て、あなたの生まれた国に帰りなさい。』」

31:14 ラケルとレアは答えた。「私たちの父の家には、相続財産で私たちの取り分がまだあるでしょうか。

31:15 私たちは父に、よそ者と見なされているのではないのでしょうか。あの人は私たちを売り、しかもその代金を食いつぶしたのですから。

31:16 神が私たちの父から取り上げた富は、すべて私たちのもの、また子どもたちのものです。さあ、神があなたにお告げになったことを、すべてなさってください。」

ヤコブは不正はしませんでした。自分ばかりが富むことをはかっていましたので、ラバンの家族からよく思われなくなってしまいました。神様からの幸いをいただくクリスチャンは、周囲にその祝福を流すようにしたいものです。

ヤコブの人間性とラバンの人間性が原因で関係が悪化してゆきましたが、神様はそれをきっかけにして全く別次元の御心をなそうとされました。ヤコブがそこを去って、約束の地に戻るということです。

ヤコブは神様の守りと自分の正当性を感じていました。ラバンはヤコブが富むたびに約束を変えて、それを渡さないようにしましたが、それでもヤコブは不思議と富む

ようになりました。これは神様の守りです。また彼も妻もラバンの仕打ちで悲しんでいたので、ヤコブの側についたのです。

人間関係で問題があっても、最終的にはヤコブのように神様の御心をご計画に従っていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 5日 水曜

### 創世記



31:17 そこでヤコブは立って、彼の子たち、妻たちをらくだに乗せ、  
31:18 また、すべての家畜と、彼が得たすべての財産、彼がパダン・アラムで自分のものとした家畜を連れて、カナンの地にいる父イサクのところへ向かった。  
31:19 そのとき、ラバンは自分の羊の毛を刈りに出ていた。ラケルは、父が所有しているテラフィムを盗み出した。  
31:20 ヤコブはアラム人ラバンを欺いて、自分が逃げるのを彼に知られないようにした。  
31:21 彼は自分のものをすべて持って逃げた。彼は立ち去ってあの大河を渡り、ギルアデの山地の方へ向かった。  
31:22 三日目に、ヤコブが逃げたことがラバンに知らされた。  
31:23 ラバンは身内の者たちを率いて、七日の道のりを追って行き、ギルアデの山地でヤコブに追いついた。  
31:24 神は夜、夢でアラム人ラバンに現れて仰せられた。「あなたは気をつけて、ヤコブと事の善悪を論じないようにしなさい。」  
31:25 ラバンはヤコブに追いついた。そのとき、ヤコブは山地に天幕を張っていたが、ラバンもギルアデの山地に身内の者たちと天幕を張った。  
31:26 ラバンはヤコブに言った。「何ということをしたのか。私を欺いて、娘たちを、剣で捕らえられた者のように引いて行くとは。  
31:27 なぜ、あなたは逃げ隠れて私を欺き、私に知らせなかったのか。タンバリンや豎琴で喜び歌って、あなたを送り出しただろうに。  
31:28 しかもあなたは、私の孫や娘たちに口

づけもさせなかった。あなたは全く愚かなことをしたものだ。

31:29 私には、あなたがたに害を加える力があるが、昨夜、あなたがたの父の神が私に、『あなたは気をつけて、ヤコブと事の善悪を論じないようにせよ』と告げられた。

31:30 それはそうと、あなたは、あなたの父の家がどうしても恋しくなって出て行ったのだろうか、なぜ私の神々を盗んだのか。』

31:31 ヤコブはラバンに答えた。「あなたがご自分の娘たちを私から奪い取りはしないかと思って、恐れたのです。

31:32 あなたがご自分の神々をだれかのところで見つけたら、私はその者を生かしておきません。私のところに何があるか、私たちの一族の前で、ご自分で調べてください。そして持って行ってください。」ヤコブは、ラケルが盗んだことを知らなかったのである。

31:33 そこで、ラバンはヤコブの天幕とレアの天幕、また二人の女奴隷の天幕に入って行ったが、見つからなかった。彼はレアの天幕を出て、ラケルの天幕に入った。

31:34 ところが、ラケルはすでにテラフィムを取って、それらをらくだの鞍の中に入れ、その上に座っていたので、ラバンが天幕を隅々まで調べても見つからなかった。

31:35 ラケルは父に言った。「父上、どうか怒らないでください。私はあなたの前で立ち上ることができません。女の常のことがあるからです。彼は捜したが、テラフィムは見つからなかった。

ヤコブは神の導きと守りを信じ、ラバンの不正

に対して悪で報いることもせず、また神の導きなら妻たちも同意してくれるだろうとの確信から、家族で一致して前進することができました。ただ一つ、妻の父であるラバンに関しては肯定的な確信を持つことができず、秘密のうちに去ることにしました。それはラバンの怒りをかかったです。

ヤコブはラバンに信仰を持って打ち明けるべきだったという考え方もできますが、そうしていたらもっと酷い争いになっていたかもしれません。過去の事実に関して不確実な予想をしても意味がありませんし、ましてそれで後悔したり批判することは御心ではありません。人間の失敗は神様の目から見れば無数にあるでしょう。神様の主題はすべての人が聖く変わることなのです。(ヤコブには後にそれが実現します。)

今や神の計画の担い手であるヤコブに対して、ラバンも支配することはできません。神様は「善悪について論じるな」と警告を与えられました。ヤコブにも問題がありましたから、悪を指摘することはできたでしょうが、それをするのなら争いとなります。神の計画に従っているヤコブは勝利するのですから、これはラバンのための警告とも取れるものです。

神様のご計画と御心を行うために、信仰の勇氣を持って前進しましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

## 6日 木曜

### 創世記



31:36 するとヤコブは怒って、ラバンをとがめた。ヤコブはラバンに向かって言った。「私にどんな背きがあり、どんな罪があるというのですか。私をここまで追いつめるとは。」

31:37 あなたは私の物を一つ残らず調べて、何か一つでも、あなたの家の物を見つめましたか。もしあったなら、それを見つめたか、あなたの一族の、あなたの一族の前に置いて、彼らに私たち二人の間をさばかせましょう。

31:38 私があなたと一緒にいた二十年間、あなたの雌羊も雌やぎも流産したことはなく、また私はあなたの群れの雄羊も食べませんでした。

31:39 野獣にかみ裂かれたものは、あなたのもとへ持って行かずに、私が負担しました。それなのに、あなたは昼盗まれたものや夜盗まれたものについてまでも、私に責任を負わせました。

31:40 私は昼は暑さに、夜は寒さに悩まされて、眠ることもできませんでした。

31:41 私はこの二十年間、あなたの家で過ごし、十四年間はあなたの二人の娘たちのために、六年間はあなたの群れのために、あなたに仕えてきました。しかも、あなたは何度も私の報酬を変えました。

31:42 もし、私の父祖の神、アブラハムの神、イサクの恐れる方が私についておられなかったなら、あなたはきっと何も持たせずに私を去らせたことでしょう。神は私の苦しみとこの手の労苦を顧みられ、昨夜さばきをなさったのです。」

ヤコブはこれまで我慢していた思いを一気に吐き出しました。彼は策略で財産を増やそうとした面も

あり、問題点もあったのですが、一方ここで言うような誠実さも併せ持っていたのでしょう。ラバンの心にはどの程度届いたかはわかりませんが、ヤコブの家族は共感したことでしょう。

人は誰も完全ではありませんが、その心のどこかに信仰の誠実さがあるなら、その思いは誰かに伝わって主の御心を成し遂げる力になれるのです。またここでヤコブは神が「…ついておられなかったら」「神は…さばきをなさった」と、神様を主軸として語っています。信仰の誠実さとともに、彼が今主がなさろうとしていることに従っているゆえの確信です。

「昨夜さばきを…」というのは、「善悪を論じないように」との主のおことばのことです。もしもそれを論じるなら人間は誰もが不完全で非があるのですから泥沼化し、結局は人数の多い方が勝つこととなります。つまりラバンに勝ち目があったのですが、神様はそうなることを許さなかったのです。ヤコブはそれを神のさばきと取りました。

当然ヤコブが全部正当化されるわけではありません。私たちも同じです。しかし神様は不完全な者でも、からしだねのような信仰の者でも、主に従う思いのある者を守ってくださいなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 7日 金曜

### 創世記



31:43 ラバンはヤコブに答えた。「娘たちは私の娘、子どもたちは私の子ども、群れは私の群れ、すべてあなたが見るものは私のもの。この私の娘たちに対して、または、娘たちが産んだ子どもたちに対して、今日、私が何をするというのか。」

31:44 さあ今、私とあなたは契約を結び、それを私とあなたとの間の証拠としよう。」

31:45 そこで、ヤコブは石を取り、それを立てて石の柱とした。

31:46 ヤコブは自分の一族に言った。「石を集めなさい。」そこで彼らは石を取り、石塚を作った。彼らは石塚のそばで食事をした。

31:47 ラバンはそれをエガル・サハドタと名づけたが、ヤコブはこれをガルエドと名づけた。

31:48 そしてラバンは言った。「この石塚は、今日、私とあなたとの間の証拠である。」それゆえ、その名はガルエドと呼ばれた。

31:49 また、それはミツパとも呼ばれた。彼がこう言ったからである。「われわれが互いに目の届かないところにいるとき、【主】が私とあなたの間の見張りをされるように。」

31:50 もし、あなたが私の娘たちをひどい目にあわせたり、娘たちのほかに妻をめとったりするなら、たとえ、だれもわれわれとともにいなくても、見よ、神が私とあなたとの証人である。」

31:51 また、ラバンはヤコブに言った。「見なさい、この石塚を。そして見なさい、あなたと私の間に私が立てた、この石の柱を。」

31:52 この石塚が証拠であり、この石の柱が証拠である。私は、この石塚を越えてあなた

のとこに行くことはない。あなたも、敵意をもって、この石塚やこの石の柱を越えて私のところに来てはならない。

31:53 どうか、アブラハムの神、ナホルの神、彼らの父祖の神が、われわれの間をさばかれるように。」ヤコブも、父イサクの恐れる方にかけて誓った。

31:54 ヤコブは山でいけにえを献げ、一族を食事に招いた。彼らは食事をして、山で一夜を明かした。

31:55 翌朝早く、ラバンは孫と娘たちに口づけて、彼らを祝福した。それからラバンは去って、自分の所へ帰った。

ラバンはヤコブの労働によって益を得ていたから、彼らを戻させたかったのですが、それが叶わないと知ると今度は安心のために契約を結ぼうとします。それも自分の主張を通すために、ヤコブのものはすべて自分のものだという前提から始めようとしています。

ヤコブはそれを受け入れます。あれほど自分とその権利を主張したヤコブでしたが、少しずつ変わってきたようです。なぜでしょうか。

第一に彼の思いは神様の祝福とその計画にシフトしていました。ここでラバンと争って少しの権利を得たところで、それから新しく神様がくださるものに比べたら取るに足りないと思ったと考えられます。

第二に彼の信じる方とラバンの信じる価値観とははっきりと違っていて、ラバンとはどこまでも並行線だと悟ったのでしょう。ラバンの信じるものは神々であり、ヤコブの信じる神を信じているようでありながら、実際は「ナホル（アブラハムの兄弟）の神」と言っています。唯一の神はナホルに現れたことはありません。彼にとって神とは色々存在し、また単に親の考えを受け継ぐ程度のものなのです。

ヤコブも人生の様々な苦勞の中から、生きた神を体験し、神の計画と祝福に信頼するようになりました。そして今やその信仰のゆえに、不信者と争うよりも主の導きに前進しようとしています。これはまさに私たちのあるべき姿でもあります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたその部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



32:1 さて、ヤコブが旅を続けていると、神の使いたちが彼に現れた。

32:2 ヤコブは彼らを見たとき、「ここは神の陣営だ」と言って、その場所の名をマハナイムと呼んだ。

32:3 ヤコブは、セイルの地、エドムの野にいる兄のエサウに、前もって使いを送った。

32:4 ヤコブは彼らに命じた。「私の主人エサウにこう伝えなさい。『あなた様のしもべヤコブがこう申しております。私はラパンのもとに寄留し、今に至るまでとどまっています。』」

32:5 私には牛、ろば、羊、それに男女の奴隷がおります。それで私の主人であるあなた様にお知らせして、ご好意を得ようと使いをお送りしました。』」

32:6 使者は、ヤコブのもとに帰って来て言った。「兄上エサウ様のもとに行き参りました。あの方も、あなたを迎えにやって来られます。四百人があの方と一緒にいます。」

32:7 ヤコブは非常に恐れ、不安になった。それで彼は、一緒にいる人々や、羊や牛やらくだを二つの宿営に分けた。

32:8 「たとえエサウが一つの宿営にやって来て、それを打つても、もう一つの宿営は逃れられるだろう」と考えたのである。

32:9 ヤコブは言った。「私の父アブラハムの神、私の父イサクの神よ。私に『あなたの地、あなたの生まれた地に帰れ。わたしはあなたを幸せにする』と言われた【主】よ。

32:10 私は、あなたがこのしもべに与えてくださった、すべての恵みとまことを受けるに

値しない者です。私は一本の杖しか持たないで、このヨルダン川を渡りましたが、今は、二つの宿営を持つまでになりました。

32:11 どうか、私の兄エサウの手から私を救い出してください。兄が来て、私を、また子どもたちとともにその母親たちまでも打ちはしないかと、私は恐れています。

32:12 あなたは、かつて言われました。『わたしは必ずあなたを幸せにし、あなたの子孫を、多くて数えきれない海の砂のようにする』と。」

神様は呼ばは答えてくださる方です。またそれだけでなく、神ご自身私たちに現れて、励ましと導きを与えてくださいます。礼拝やディポーションまた祈りの日常の中で神様が思いがけずに語ってくださったことも大切にしてください。それが後の力になることでしょう。

ヤコブは神様から祝福の約束をいただきましたが、それは故郷に帰るといふことをも意味しました。かつて自分がだましたことによって、自分を憎んでいる兄エサウとも関わり生きてゆくことになるのです。

神様の導きに沿って生きる者は、守りと力をいただくのですが、それと共に神にふさわしい信仰の生き方を身に付けるように求められます。また過去のあやまちや罪をも清算し解決しなければなりません。

ヤコブにもその課題が残されていましたが、彼はエサウに使者をやって、状況を知り対処しようとしていました。まだ自分のはかりごとで乗り越えようとしているのです。しかしエサウは400人もの人間で乗り込んで来ようとしています。ヤコブはさらに恐れて次の策に出ます。

人間の策は、聖書の教えから出ていることもありますし、神様から与えられた知恵もありますから、すべて否定すべきではありませんが、ときには全く無力の場合があります。ヤコブはようやく9節において祈りました。それは約束、謙遜、感謝、願い、そして約束で閉じるという模範的な祈りです。

ヤコブはその後もこの祈りの通りに生きたわけではあ

りませんが、祈りが信仰の歩みに先立っていることを注視すべきです。信仰の告白から始めましょう。約束、謙遜、感謝、願いでだけでなく、賛美、信頼、悔い改め、希望などを告白して、現実には翻弄されない信仰者になりましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



32:13 その夜をそこで過ごしてから、ヤコブは自分が手に入れたものの中から、兄エサウへの贈り物にするものを選び出した。

32:14 雌やぎ二百匹、雄やぎ二十匹、雌羊二百匹、雄羊二十四匹、

32:15 乳らくだ三十頭とその子、雌牛四十頭、雄牛十頭、雌ろば二十頭、雄ろば十頭。

32:16 彼は、しもべたちの手にそれぞれ一群れずつを渡し、しもべたちに言った。「私の先を進め。群れと群れの間には距離をおけ。」

32:17 また、先頭の者に命じた。「もし私の兄エサウがあなたに会い、『あなたは、だれに属する者か。どこへ行くのか。あなたの前のこれらのものは、だれのものか』と尋ねたら、

32:18 『これらは、あなた様のしもべヤコブのものでございます。ご主人のエサウ様に差し上げる贈り物でございます。ご覧ください。ヤコブもうしろにおります』と答えよ。」

32:19 彼は第二の者にも、第三の者にも、群れ群れについて行くすべての者に命じた。「あなたがたがエサウに出会ったら、これと同じことを告げよ。」

32:20 また、『ご覧ください。あなた様のしもべヤコブは、私どものうしろにおります』と言え。」ヤコブは、「自分の先に行く贈り物で彼をなだめ、その後で彼と顔を合わせよう。もしかすると、私を受け入れてくれるかもしれない」と思ったのである。

ヤコブは「かつて神とあなたの前に罪を犯しました」と悔い改めるべきでしたが、それは念頭になかったようです。エサウにはそれも通じないと思ったのかもしれませんが。そ

れにしても神には悔い改め、その後どうなるかは神様に任せることが必要でした。

神様に委ねられないとき、人は多くの小さな策を考え出し、実行します。ヤコブの行動もそれで、多くの贈り物（それも相手が喜びそうな組み合わせで）、相手に対処するシュミレーション、問題が起きた場合の対策などです。エサウの性格までも読んだこの危機管理は見事ですが、信仰の世界すなわち神様との関係では、もっと見事な対処法があります。それは先ず自分が変わることです。過去を悔い改め、きよめられて成長し、神様は自分に関して求めておられることを教えていただき、実行することです。

それがなかったヤコブの行動は、これほどの犠牲を払っていても何か空しく感じます。人間関係の問題は、神の目で見ると、自分が変わる最良のチャンスです。多くの場合はそれに気付かずにより過ぎてしまうのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

